

回反応と合成の進歩シンポジウム, 1998, 11, 千葉.

- 9) 劉 兆鵬, 鈴木英美子, 白神友樹, 佐藤 朗, 柴田哲男, 竹内義雄: 新規スルタム型不斉フッ素化反応剤の開発研究. 第24回反応と合成の進歩シンポジウム, 1998, 11, 千葉.
- 10) 樽井隆直, 柴田哲男, 竹内義雄: 3-フルオロオキシインドールの新規合成. 日本薬学会北陸支部第99回例会, 1998, 11, 金沢.
- 11) 田中 幸, 福島亜希, 高橋たみ子, 竹内義雄: CFTAを用いる絶対構造決定法の研究. 日本薬学会北陸支部第99回例会, 1998, 11, 金沢.
- 12) Takeuchi Y.: CFTA, a new chiral derivatizing agent for the determination of enantiomeric excess of chiral molecules by NMR techniques. Minisymposium on Organic Chemistry for the 70th Anniversary of the National Taiwan University, 1998, 11, Taipei, Taiwan (台北, 台湾).
- 13) Takeuchi Y.: Efficient and practical approaches toward enantioselective, electrophilic fluorinations. 1998 International Symposium on Organic Reactions- Hsinchu. 1998. 11, Hsinchu, Taiwan (新竹, 台湾).
- 14) 竹内義雄, 白神友樹, 佐藤 朗, 劉 兆鵬, 近藤真紀, 鈴木英美子, 柴田哲男. 不斉フッ素化反応剤CMT-Fの開発と含フッ素生物活性物質合成への応用. 第22回フッ素化学討論会, 1998, 11, 大阪.
- 15) 高橋たみ子, 福島亜希, 田中 幸, 竹内義雄, 甲 國信, 甲 千寿子: ^1H -および ^{19}F -NMRを利用する新規絶対構造決定手段としてのCFTA法. 第22回フッ素化学討論会, 1998, 11, 大阪.

◆ その他

- 1) Takeuchi Y.: α -Cyano- α -fluoro-*p*-tolylacetic Acid (CFTA), a highly versatile chiral derivatizing agent-An efficient approach to CFTA by a biochemical method. Special Seminar for Chemical-Pharmaceutical Research and Development, 1998, 9, Bucharest, Romania.

薬 剤 設 計 学 物 理 化 学 研 究 室

教 授 上 野 雅 晴
助 教 授 吉 川 広 之
助 手 柏 木 寛
助 手(前) 小 暮 健 太 朗

◆ 原 著

- 1) Sun C. and Ueno M.: Formation and property of HCO-10 vesicles. New method to prepare HCO-10 vesicles with high entrapment efficiency. *Progr. Colloid Polymer Sci.*, 106:281-286, 1997 (昨年度未掲載)
- 2) Viroonchatapan E., Sato H., Ueno M., Adachi I., Murata J., Saiki I., Tazawa K., and Horikoshi I.: Microdialysis assesment of 5-fluorouracil release from thermosensitive magnetoliposomes induced by an electromagnetic field in tumor-bearing mice. *J. Drug Targeting.*, 5:379-390, 1998
- 3) Takaya T., Niwa K., Muraoka M., Ogita, I., Nagai N., Yano R., Kimura G., Yoshikawa Y., Yoshikawa H., and Takada K.: Importance of dissolution process on systemic availability of drugs delivered by colon delivery system. *J. Controlled Release*, 50:111-122, 1998.
- 4) Yoshikawa Y., Kawai A., Yasui H., Yoshikawa H., and Takada K.: Preparation and evaluation of microporous etylcellulose capsule as oral sustained-release preparation of theophylline. *Biopharm. Drug Dispost.*, 19: 333-339, 1998.
- 5) Yokozawa T., Dong E., Nakagawa T., Kashiwagi H., Nakagawa H., Takeuchi S., and Chung H. Y.: In Vitro and in Vivo Studies on the Radical-Scavenging Activity of Tea. *J. Agric. Food Chem.*, 46:2143-2150, 1998

◆ 学会報告

- 1) 柏木 寛, 相澤和年, 嵯峨崎伸二, 田中 学, 相澤和年, 後藤直久, 上野雅晴: スピンラベル法によるベシクル破壊機構の検討. 日本化学会第74春季年会, 1998, 3, 京田辺.
- 2) 笠岡 敏, Viroonchatapan. Ekapop, 上野雅晴: 癌化学療法の機能性薬物担体としての温度

- 感受性磁気リポソーム. 日本薬学会第118年会, 1998, 3, 京都.
- 3) 小暮健太郎, 奥田乙茂, 中村智春, 上野雅晴, 林 京子: タンパク質の膜間移行現象におけるリポソーム膜物性の関与. 日本薬学会第118年会, 1998, 4, 京都.
 - 4) 孫 常麒, 上野雅晴: カルシウムイオン添加によるコール酸塩除去ベシクルのサイズ成長とその機構. 日本薬学会第118年会, 1998, 4, 京都.
 - 5) 相澤和年, 柏木 寛, 上野雅晴: 分光学的手法によるベシクル破壊機構の研究. 日本薬学会第118年会, 1998, 4, 京都.
 - 6) 上野雅晴, 柏木 寛, 小暮健太郎, 孫 常麒, 廣田紀子: ベシクル成長を制御する因子. 日本薬学会第118年会, 1998, 4, 京都.
 - 7) 伊藤 卓, 上野雅晴, 林 京子, 小暮健太郎: 膜間蛋白質移行を利用した膜融合性赤血球ゴーストの試作. 日本薬学会北陸支部第98例会, 1998, 6, 金沢.
 - 8) 柏木 寛, 嵯峨崎伸二, 田中 学, 由利良吉, 相澤和年, 森 佳洋, 上野雅晴: EPR, FTIR, 蛍光法によるミセル-ベシクル転移機構の検討. 第51回コロイドおよび界面化学討論会, 1998, 9, 千葉.
 - 9) 上野雅晴, 伊藤 卓, 玉木慎也, 小暮健太郎, 奥田乙茂, 林 京子: 膜蛋白質の膜間移行とこれを利用したDDS開発の試み. 第51回コロイドおよび界面化学討論会, 1998, 9, 千葉.
 - 10) 孫 常麒, 広田紀子, 柏木 寛, 上野雅晴, 佐野 洋: ミセル-ベシクル転移とベシクルのサイズ制御. 第51回コロイドおよび界面化学討論会, 1998, 9, 千葉.
 - 11) 小暮健太郎, 伊藤 卓, 奥田乙茂, 林 京子, 上野雅晴: 膜融合性赤血球ゴーストを用いたタンパク質細胞内移入技術の開発. 第71回日本生化学会, 1998, 10, 名古屋.
 - 12) 上野雅晴: [総説講演] ミセル-ベシクル転移と膜タンパク質の再構成. 第38回日本臨床化学会年会, 1998, 10, 富山.
 - 13) 柏木 寛, 明智洋子, 嵯峨崎伸二, 田中 学, 由利良吉, 相澤和年, 廣田紀子, 孫 常麒, 上野雅晴, 佐野 洋: 界面活性剤によるリン脂質ベシクルの破壊と界面活性剤除去法によるベシクル生成機構. 第20回生体膜と薬物の相互作用シンポジウム, 1998, 11, 富山.
 - 14) 上野雅晴, 伊藤 卓, 玉木慎也, 奥田乙茂, 小暮健太郎, 林 京子: 膜蛋白質の膜間移行を支配する因子. 第20回生体膜と薬物の相互作用シンポジウム, 1998, 11, 富山.
 - 15) 小暮健太郎, 伊藤 卓, 奥田乙茂, 林 京子, 上野雅晴: タンパク質膜間移行現象を利用した膜融合性赤血球ゴーストの開発. 第20回生体膜と薬物の相互作用シンポジウム, 1998, 11, 富山.
- ◆ その他
- 1) 上野雅晴: ミセル-ベシクル転移と膜タンパク質の再構成. 新潟薬科大学特別講演会, 1998, 7, 新潟.